



人の世に熱あれ 人間に光りあれ!!

発行人 牧坂秀敏・小宮 豊

人権相談員便り [結び]

あなたの人権は保障されていますか？ 一人で悩まずにお気軽にご相談ください。

要介護者の重度化を予防し、自分らしく尊厳を持って暮らせるよう、「自分の口でおいしく食べたい」を支える

訪問歯科診療の ススメ



◆増加する訪問歯科診療だが…

最近、歯科医院で訪問診療しているところが増えてきました。しかし、要介護者の約9割が何らかの歯科治療を必要としながらも、実際に受診した要介護者は約27%に過ぎず、訪問歯科診療の絶対的不足が指摘されています（厚労省調べ）。

訪問歯科診療の対象となるのは、「通院困難な患者」に限られます。要介護の高齢者、あるいは身体に障害があったり、病気を抱えていたりする方々は、歯を診てもらいたくても身体が不自由なために通院できません。そういった人を対象に、歯科医が歯科衛生士などと一緒に訪問診療するわけですが、訪問先は自宅だけに限りません。入院中の病院（歯科の標榜がない）や入所中の介護老人福祉施設（特養ホーム）や介護老人保健施設、はたまた有料老人ホームなどにも訪問します。

訪問歯科診療の内容ですが、「平成23年度検証調査」（厚生労働省資料）によると、最も多いのが「入れ歯の製作や調整」で52.3%、次が「歯や口の中、入れ歯の清掃方法の指導」で39.3%、続いて「食べ方・飲み方の訓練・指導」17.9%、「むし歯の治療や歯の根の治療」「歯周病の治療」がそれぞれ14.8%、「診察のみ」6.5%、「冠を被せる治療やブリッジの治療」3.6%、「歯を抜いた」1.8%となっています。

通院困難な方に多い訴えは、「食べられなくて困っている」というものです。食べられなくなった原因は、入れ歯が痛いとか、入れ歯を壊してしま

ったり、歯が抜けてしまったりとさまざまです。調査結果にあるように、患者の訴えに応じて、むし歯や歯周病などの治療や入れ歯の作製・修理、口腔ケアなどを行っています。

◆同行して見た！ 訪問歯科診療の実際

実際に、筆者は訪問歯科診療に同行してみました。日によってちがいますが、1日9人の患者さんを訪問します。巡回で往診しますので、あらかじめ訪問時間を決めていて、当日治療に必要な患者さんのカルテと歯科治療器具を準備し、車で移動します。午前中を出発してから、最後の患者さん宅での訪問診療を終えて医院に戻るまで、外回りの1日です。急患が入ることもあります。

入れ歯が合わなくなって痛いと訴える患者さん。入れ歯を修理してはめ込むのですが、「痛い」と訴える患者さんに微調整を繰り返します。「先生、痛くありません」という一言が出てやっと診療が終わります。入所している施設の自室ですべて行いますから、身体に負担はかかりません。

急患で訪問した患者さんは、入れ歯を引っかけていた唯一の自歯が抜けてしまったというのです。放置していたら、入れ歯の金属が引っかけるものを失って、頬や喉に突き刺さるかもしれないという危険が潜んでいます。歯にひっかける金属部分を切り取り、安全に装着できるように調整します。

どのケースも、口腔ケアを併せて行います。口腔内の細菌が誤嚥性肺炎の原因になるだけではなく、血管障害、心臓病、糖尿病などの疾患を引き起こすといわれています。体力が落ちている人や免疫力が低下している人にとっては口腔内の細菌は大敵ですので、口腔内を清潔に保つことが非常

に大切なことです。その重要性を介護する家族に説明し、また口腔ケアの仕方を教えることで家族もひごろどういうことに気をつけて介護をすればいいのかわかることにもなります。

脳梗塞で後遺症が残り、胃ろうを設けて退院した患者さん。胃ろうとは、脳神経や口腔や咽頭や食道の機能に障害があり、口腔・咽頭・食堂を経由して食物や水分や医薬品などの経口摂取が不可能または困難な嚥下障害がある場合、患者に人工栄養や水分や医薬品を投与するために造設したものです。患者は胃ろうから必要で十分な栄養や水分や医薬品を摂取し、生命を維持することとなります。

5年近く訪問歯科診療を継続している方ですが、現在では口から普通に食事ができるようになっていました。地道で気長に口腔ケアや口腔リハビリを重ねることによって、本人の生きる意欲、回復しようという意欲を引き出しつつ、患者に寄り添った治療・ケアが実を結んだわけです。

脳梗塞の後遺症でマヒは残っていますが、生気がみなぎっていて、「変わらないですか？」という歯科医の声かけにすてきな笑顔を返されました。

訪問歯科診療に同行して感じたのは、患者がその人らしく生きること、毎日が少しでも快適に生きられるように、一人一人の状態を見極めつつ、的確な対応を心がけていることです。

なによりも患者の心身の状態や生活環境、食生活を実際にみることによって、院内治療ではできない、たとえば、入れ歯を作った場合、実際の食生活に即して、きめこまかな調整ができます。食事摂取や介助にしても、どのような仕方でやればいいのかを実技指導を含めて家族に適切なアドバイスも可能です。そして、継続的に訪問することで、その効果・効能を確かめられ、また高められます。

「平成23年度検証調査」では、訪問歯科診療の満足度は「とても満足している」が44.6%、「満足している」が50.9%であり、大部分の患者が診療内容に満足していることがわかります。

◆費用はどのくらいかかる？

気になるのは費用ですが、訪問歯科も保険が適用されますので、保険診療費用のみで、往診に要

する交通費等は負担することはありません。ただし、通院治療にはなかった「歯科訪問診療料」が加算されます。1割負担の方で、1回の診療につき866円ですが、同日に同一建物内（特養等）で2人～9人以下の患者の診断を行った場合の加算は283円、10人以上だと43円となります。

また、訪問歯科診療では一部が介護保険で算定され、自宅、グループホーム、有料老人ホームなど「居宅」と扱われる施設における訪問歯科診療において、「居宅療養管理指導」での算定となり、その内容に応じて302円～855円の額が定められています。ただし、月の上限額が2414円に設定されており、月に何度診療が行われたとしてもこの額を超えることはありません（上記介護保険の料金は1割負担の場合の金額。2割負担の場合は、上記の2倍の料金）。以上、一般社団法人日本訪問歯科協会のホームページを参考にしました。

なお、日本訪問歯科協会は、歯科医院への通院困難な方を対象とした、ご自宅で受けられる「お口の健康相談会」をボランティア啓発活動として実施しています。受けられる方の費用負担はありません。「お口の健康相談」の後に、治療を希望される方は、保険診療となり、一部負担金が必要となります。詳しくは、下記までお問い合わせを。



月曜～金曜 9:00～20:00、土曜 9:00～17:00

メールアドレスは、info@houmonshika.org

◆いつまでも自分らしく尊厳をもって暮らすために

超高齢社会がすすみ、要介護高齢者が増加しています。脳卒中等の後遺症、また使わないことによる機能の変化によって、歯と口唇、頬の動きの調和が崩れたり、食べたものをうまく飲み込めなかったりする方が、増えています。このような場合、口腔機能の向上や嚥下機能を改善するような口腔の体操や口腔リハビリが大変有効です。歯科訪問診療の中でも、症状によって口腔機能訓練や摂食・嚥下訓練を行っています。

訪問歯科診療で、「自分の口で食べる喜び」を復活させたいものです。